



田中 康夫
新党日本代表

官僚主導を改めたい

「明治維新が『日本の開国』なら、今回の衆院選は、官僚統治や中央集権のシステムを改め、新しく国をつくり直す『日本の改国』という歴史的大転換を、国民一人一人が選択する選挙になる。」

「脱・しがらみ」「脱・なれあい」が、新党日本の基本精神だ。国民が疑問を抱いている公共事業のあり方、官僚主導の政治を改める。福祉や医療、教育、介護、環境に地域の活力と雇用を再生する力がある。既存政党にあきたらない「ウルトラ無党派」の方々と共に変革したい。

民主党と基本的な姿勢は同じで、衆院選後も協力していく。

私には長野県知事の経験がある。何百人を面接して人事を決め、予算も積み上げ書から目を通して作った。6年連続で、全国で唯一借金を減らし、黒字財政にした。工面したお金を福祉や医療、教育、介護に振り向けた。政権交代を果たした後、こうした役目を果たすことができると、自負がある。官僚を萎縮させるのではなく、官僚になった時に「社会が良くなってるほしい」と抱いた心をもう一度奮い立たせることもできる。

（聞き手
田入哲也）